

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和2年3月16日	
所属部局・職	アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程（5年一貫制）4回生
氏名	大塚亮真
1. 派遣国・場所 （〇〇国、〇〇地域）	
ウガンダ共和国ブウィンディ原生国立公園	
2. 研究課題名 （〇〇の調査、および〇〇での実験）	
ウガンダ共和国ブウィンディ原生国立公園におけるマウンテンゴリラの住民参加型保全とエコツーリズムの持続可能性に関する研究	
3. 派遣期間 （本邦出発から帰国まで）	
令和元年11月20日～令和2年3月11日（113日間）	
4. 主な受入機関及び受入研究者 （〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士／〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏）	
Conservation Through Public Health, Dr. Gladys Kalema-Zikusoka / Uganda Wildlife Authority	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 （研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由）	
<p>今回の渡航ではウガンダ共和国に渡航し、ブウィンディ原生国立公園にて上記の研究課題についてのフィールド調査を実施した。今回のフィールド調査では、参与観察、インタビュー調査、そしてアンケート調査を実施した。なお、以下の調査内容はすべてブウィンディ原生国立公園の北区（Buhoma）にて実施した。</p> <p>【研究内容、調査等実施の状況とその成果】</p> <ol style="list-style-type: none">1. ツーリストの期待と満足度に関するアンケート調査 ツーリストの期待と満足度に関するアンケート調査を実施した。国立公園のガイドと協力して、ゴリラトラッキングから開始地点に戻ってきたツーリストを対象として、ガイドまたは報告者がアンケートを配布し任意で回答してもらった。プレテストでは1週間で90サンプルのアンケートを得た。その後、本調査を開始して3週間で合計375サンプルのアンケート（有効回答のみ）を回収した。回答率は90%以上とひじょうに高かった。今後アンケートのデータを入力して統計的な解析を実施する。2. ツーリストのインタビュー調査 ゴリラトラッキングを終えた後のツーリストを対象に半構造化インタビューを実施した。24組（計35名）のツーリストをインタビューした。報告者とツーリストのインタラクションはツーリストの承諾を得たうえでICレコーダーで録音し、インタビューの最中とインタビュー後に報告者はメモを取った。音声データを文字起こしして、Nvivoなどの質的分析ソフトウェアを用いて質的コーディングと分析を実施する予定である。	
写真（必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの）の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
<平成26年5月28日制定版> 提出先： report@wildlife-science.org	

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

3. 国立公園のガイドとトラックターのインタビュー調査

国立公園の職員のうち現場でゴリラトラッキングに密接に関与するガイドとトラックターを対象に半構造化インタビューを実施した。合計で 10 名のガイドと 11 名にトラックターをインタビューした。ちなみに、ブウィンディ原生国立公園の北区には調査実施当時合計 11 名のガイドと 13 名のトラックターがいた。1 名のガイドは病気療養中であり、1 名のトラックターは英語がわからず、残る 1 名のトラックターは日程調整がうまく行かず休暇に行ってしまった。データは上記 2 の方法と同様に記録した。分析も同様に実施する予定である。

4. ゴリラトレッキングの参与観察

合計 28 回のゴリラトレッキングに参加して a) ガイド・トラックターとツアーリストのインターアクション、b) ゴリラとツアーリストのインターアクション、c) ゴリラとガイド・トラックターのインターアクションの 3 点をアドリブで記録した。また、参与観察時に記録が難しかった場合は後で記憶を頼りにメモを取った。さらに 2 分間隔でゴリラとツアーリストの最近接距離、観察対象となった個体とその行動も記録した。また、2m 以上の極めて近いゴリラとツアーリストとの近接があった場合はその状況を詳細に記録した。このデータは 1~3 のデータとあわせて量的・質的に分析を進める。



写真 1. M 群のシルバーバック



写真 2. 2019 年 9 月に生まれた個体

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

6. その他 (特記事項など)

本フィールド調査は PWS と JSPS (日本学術振興会) の支援のもと実施することができました。研究受入機関である Conservation Through Public Health のみなさん、そして調査許可を与えてくださった Uganda Wildlife Authority と Uganda National Council for Science and Technology に感謝申し上げます。また、アンケート調査とインタビュー調査にご協力いただいた Uganda Wildlife Authority のスタッフやツアーリストのみなさんにも心より御礼申し上げます。